

令和3年度第1回 三重短期大学外部評価委員会報告書

1 日 時 令和3年7月9日（金） 17時00分～18時52分

2 場 所 三重短期大学管理棟2階 演習室1

3 出席者

(1)外部評価委員 出席5名

委員長 栗原 廣海 （高田短期大学 名誉教授）

委員 伊藤 公昭 （株式会社三十三総研 代表取締役副社長）

委員 上田 美也子（上田法務合同事務所 土地家屋調査士・行政書士）

委員 仲 律子 （学校法人藍野大学 学生相談室 臨床心理士）

委員 福井 長年 （三重県立久居高等学校 校長）

(2)事務局 出席8名

村井学長、溝田事務局長、田中事務局次長兼大学総務課長、長友学生部長、藤枝図書館長兼地域連携センター長、大畑法経科長、橋本食物栄養学科長、南生活科学科長

4 委員のご意見

- ・退学に至った学生の考え方を大学として把握する必要があるのではないか。
- ・法経科第2部の定員充足率が57.3%となっているが、現在、企業は学び直し、つまりリカレント教育に力を入れている。そのため、法経科第2部の特色を生かし、入学者数を増やす取組として高校へのPR活動だけでなく、企業に対してPRしてはどうか。
- ・例えば学生のディプロマポリシーの修得度を確認するなどの方法を整理し、ルーブリックの作成を進めていくべきではないか。
- ・精神疾患や発達障害を持った学生が増えており、さらにコロナ禍での不安を抱える学生が多い中、特に短期大学の学生については、授業のスケジュールが厳しく、学生相談に行く時間を確保することも難しいと考えられるため、大学として、いつでも相談できる体制を整えることが重要ではないか。
- ・学生のためにも、WI-FI環境の整備を強化することが必要ではないか。
- ・夜間の学生の安全確保のためにも、暗い部分への照明設備を整備していくことが必要ではないか。
- ・校舎棟の大規模な改修工事を実施する上で、アスベストの含有個所などは、学生への健康被害を起こすようなことがないように適切に設置者として管理していくことが重要である。
- ・大学案内や学科ごとのパンフレットを有効に活用していくためには、それぞれの利用目的を整理した上、記述内容を見直しする必要があるのではないか。

5 提言

- 現在の学生は、多くの悩みを抱えているため、教員のみでなく、職員も学生の相談に乗れる体制を作り、三重短期大学の教職員が一丸となった学生のサポートを実施してもらいたい。
- 社会人の方、すでに退職された方、家庭の事情で昼に学校に通うことができない方に適切なPRを実施してもらいたい。
- 発達障害などを持っている学生に対しても、希望の進路先に進めるようにサポートを充実させてもらいたい。
- この外部評価委員会での提言を管理していき、今後の当該委員会において改善状況の報告を行うようにしてもらいたい。
- 認証評価以外でも、他の公立短期大学等と相互に評価しあうような制度の実施を検討されてはどうか。